

NPO法人いわてマリンフィールド

海に学び 海に親しみ 海を活用する

NPO活動の歩み

<http://i-marinefield.com>

プロフィール

2002年4月設立
7月認証

- 2011/12/31現在
正会員 45名
サポーター会員 40人
(理事14人 監事2人)
- 職員 2名
(リアスハーバー宮古
管理受託業務ほか)
- 団体会員 6団体

- マリンスポーツの振興や、海をフィールドにした社会教育の推進、青少年育成、環境保全活動、まちづくり、国際交流、健康づくり、災害救援、安全体制の確立などを目的に発足しました。
- 2004年 日本港湾協会企画賞受賞 (みなどが元気になる活動)
- 2007年 水辺のユニバーサルデザイン大賞奨励賞
- 2007年 元気なコミュニティ100選 (岩手県)
- 2009年 東北地方整備局長表彰 (みなどまちづくりマイスター認定)

これまでの主な活動

- 自然環境保全活動(ゴミゼロ運動)
- 海洋生物調査
- 少年少女海遊塾
- マリンスポーツ体験出前講座
- 宮古湾横断遠泳大会
- 一般シーカヤック教室
- 身障者シーカヤック&ヨット教室
- 不登校児童シーカヤック教室
- 各小中学校、子ども会水辺学習
- 留学生体験教室
- 小中学校総合学習指導
- ミニFM放送モデル事業
- 教育旅行受入
- ハーバーコンサート
- シルバーヨット教室
- 先生のためのマリンスポーツ教室
- ハーバーまつり
- 三陸シーカヤックマラソン大会
- ちびっこトライアスロン大会(支援)
- みたとウオッチング(支援)
- 宮古港ボート天国
- ニュージーランド青少年国際交流
- 海と風の学校
- 海の達人講座
- 地域づくり講演会等
- 都市再生プログラム事業
- 漁り火ツアー
- みたとイルミネーション
- 閉伊川大学(支援)

自然環境保全活動



毎年5月30日をゴミゼロの日としてその前後に活動します。陸上のみならず海底までも潜りゴミを回収しています。



少年少女海遊塾



ヨット&シーカヤック、ロープワークの体験。

海洋スポーツ体験出前講座



海から遠い郡部の小中学校を訪問。プールや近くの川を利用して水に親しむ機会を提供。

海洋生物調査



ダイブネット宮古
山田湾 浄土ヶ浜を調査。
写真、DVDにして関係機関に
配付。定点観測が必要。

7

2006.7.1
藤原埠頭沖の防波堤で生物調査活動を行いました。防波堤東側を重点的に調査し、南側の先を沖の方まで少し行きました。南側の1.1mのところには何かの生まれたばかりの仔魚がいました。テトラの海藻の中にはオキカズナギの群れ、あがるときにウリクラゲ(光を動かす)を撮影。水温も1.2と徐々に上がってきて、生物も多くなってきました。



浄土ヶ浜の海の生き物を紹介
オリジナルCD-ROM完成

水中の生態など収録

8

体験教室

すべての人に海原の喜びを



ユニバーサルデザインヨット導入
シルバー教室 身障者教室
一般対象 不登校児童教室。

水辺活動

海と風の学校



自然に学ぶ体験 / 海水からの塩づくり
シュノーケリング ヨット カヤック
ビーチコーミング サンドキャンドル
作りなど各種メニューを体験

10

三 陸 海 旅



新しい観光ルートの創造。岩
手沿岸180キロを3ステージに
分けてツーリング。身近に海
を体感。ウミネコの乱舞など
見る。3年間実施。

11

宮古湾横断遠泳大会



宮古-白浜間1.3キロ
10才~74才まで挑戦
身障者も数多く参加

12

三陸シーカヤックマラソンレース



全国各地から毎年130艇ほどが出場、国内でもベスト3の大会規模。キッズ部門、シニア部門も設置 13

宮古港ボート天国



14

ハーバーまつり



15

ニュージーランド青少年交流事業

海で結ぶ友情の絆

2004年から相互交流開始。
帆のまちといわれるニュージーランド・オークランド市とネルソン市の3クラブと交流。ホームステイをしながらセーリング、海の文化を通じた国際交流を実施。これまでに小中高校生延べ50人派遣。



NZ現地研修



17

協働事業の取り組み



海洋スポーツ出前講座
2003年 宮古教育事務所と協働
管内6小学校にカヤック&ヨットを持ち込み
プールで体験指導を実施。

翌年以降10~12校に出前。
毎年300人近くの子供が体験。

役割分担/事務的処理と現場指導を明確にしている。教育事務所が募集、日程調整等の事務を行い、NPOが現場を担当した。

18

協働事業の取り組み 2

海の達人講座（宮古教育事務所）
 教職員マリンスポーツ体験（宮古教育事務所）
 不登校児童カヤック教室（宮古市教育委員会）
 宮古湾藻場記録調査事業（宮古栽培漁業センター）
 リアスハーバー宮古受託管理（県）指定管理者

成果 / 行政とNPOの役割分担によってそれぞれの機能を発揮することで、事業が推進した。行政の担当者のNPOに対する理解が大きかったことも成功の要因。特に大きな問題点はなかった。
 出前講座は自主活動で続けている。
 今後も地域の特性を活かしながら、ニーズに応えた活動をしていきたい。
 NPOとの協働は官と民との連携した公である。
 公という観点をどれだけ意識し、多くの市民、県民にサービスができるかが、ポイントだろう。

19

都市再生モデル事業

- 2007年 全国都市再生モデル調査に全国から157件が選定された。
- 宮古湾周辺における親水空間の形成による新観光資源創出プロジェクト
- 美しい海と自然景観など、海やみなどを介した宮古市の地域資源を活かした地域振興の検討

20

都市再生モデル事業

環境保全プロジェクト

- 環境潜水調査
- 環境保全ポスターコンクール

親水空間形成プロジェクト

- ドライブインシアター・みなとイルミネーション・漁火ツアー・ユニバーサルデザイン型マリンスポーツ体験

情報発信媒体の運営及び作成

- ミニFM放送（防災情報）・メルマガ発行

21

環境保全プロジェクト



潜水調査は、11月～2月まで計8回実施し、潜水は宮古周辺のダイバーで組織された海中清掃ボランティアなどの環境保全活動を行っている「ダイブネット宮古」により行われ、毎回調査員数名により海中及び海底の基礎データの収集（最大深度、底質、動植物の生息状況）並びにビデオ及びデジタルカメラ等による水中映像の撮影が行われた。

22

ドライブインシアター



- 親水空間を創出するためみなとオアシス「シートピアなあと」のある出崎埠頭においてドライブインシアターを実施した。スクリーンには、敷地内にある宮古漁業協同組合製氷工場の利用。そこに、縦5メートル横13メートルの大きさに映像を映し出した。音声はFMを利用し、カーラジオや携帯ラジオから受信した。

23

みなとイルミネーション



- 親水空間を創出するためみなとオアシス「シートピアなあと」をイルミネーションによりライトアップし、シートピアなあとの利活用及びPRを行った。
- 平成19年スタート～現在に至る
- LEDイルミネーション 25000個

24

漁り火ツアー



- 三陸沖のイカ漁は秋にピークを迎え、沖合には多くの船が集結し煌々とした漁り火が幻想的な世界を作り出す。そのロケーションを生かしながらイカ釣り体験をする。それらを体験型観光プログラムに組み込む可能性を探る。
- 平成19年10月スタート 森川海をつなぐそば打ちとセット。

25

ミニFM放送（防災情報）



住民がコミュニティー意識を共有するためのまちづくり情報媒体を運営・作成し港を中心とした情報発信とネットワークづくりに取り組む
宮古市総合防災訓練にも参加。会場で災害情報発信訓練を行った。
イベント放送
三陸シーカヤックマラソン、宮古市産業まつり、毛ガニまつり、宮古港ポート天国、シートピアなど、キャトルなどで放送

26

海とまちづくり

- 地域が個性ある発展を将来にわたり着実に進めるためには、地域（みなと）の資産を住民、市民の視点から再評価するとともに、観光産業や水産業などの地域産業、海に開かれた特性など、みなとの資産を最大限に活用し、美しく活力あるみなと空間を形成することが必要である。
- 海やみなとを原点に、そこに集う地域の人々の賑わいが新たな賑わいを呼ぶといった、みなとまちの元気の基本を取り戻すことがNPOなどの活動に求められている。
- 宮古型ツーリズムの形成
環境保全、社会・文化の持続可能な社会の確保
地域の特性、自然、文化、歴史を見直す機会にもなる

27

3.11 宮古湾を襲った大津波



28

3.11 大津波



29

リアスハーバー宮古の被害



30